

でんち

一般社団法人電池工業会
BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 淡路谷隆久

平成28年2月1日

新年賀詞交歓会を開催

一般社団法人電池工業会は、平成28年1月8日東京プリンスホテルにて「平成28年新年賀詞交換会」を開催した。また、これに先立ち同会場にて「平成27年度優良従業員表彰式」を実施した。



一般社団法人電池工業会 依田会長挨拶

初めに、電池工業会がいま注力している取り組みをご紹介します。

電池工業会では、安全で安心な電池を消費者の皆様へお届けすべく、とくに消費者の皆様が直接手にとることの多い一次電池について、環境省や経済産業省、自治体とも連携・協力をしながら活動を行っております。そのひとつが、ボタン電池の水銀条例対応です。水銀を含有するボタン電池は、回収や処理方法などのブラッシュアップを図り、消費者の皆様への広報活動に力を入れています。また、コイン

形リチウム一次電池の誤飲防止対策では、乳幼児が素手で開封できないパッケージのガイドラインを作成すると共に広報活動を通じて、広く消費者の皆様への呼びかけを行っております。

続きまして、電池工業会を取り巻く状況についてお話しします。昨年12月に開催されたCOP21に象徴されますように、世界的な環境保護の流れの中、欧米を中心に大型の蓄電池市場への注目がますます高まっています。

再生可能エネルギー先進国のドイツでは、再生可能エネルギー比率は29%に達しています（日本は

12%程度)。これを2020年までに35%とする目標を掲げる一方で、電気の品質維持が難しくなってきた、あるいは、電気代が高いなどの課題があります。そこに、自然環境への高い関心が加わり、家庭用の蓄電システムを導入する機運が高まっています。

北米でも、地球温暖化対策、電力インフラ老朽化対策として、蓄電システムに関心が集まっています。とくにカリフォルニア州では、2020年までに再生可能エネルギー比率33%を目標としており、再生可能エネルギーの導入促進と安定的な電力網の両立を目指して、同州の大手電力会に対して2010年から段階的な蓄電システムの導入を義務付けています。

こういった状況下、日本の電池メーカーもビジネスチャンスを求めて世界市場へ進出を始めており、今後、電池業界の競争がグローバル規模で加速すると予想されます。

このような流れは国内市場においても例外ではありません。経済産業省の「定置用蓄電システムの購入補助金」による導入促進効果もあり、国内でも再生可能エネルギーの普及が進んでいます。一昨年の上電ショック以降、再生可能エネルギー関連の設備投資は一時的に落ち込んでいるものの、将来に向けて普及が拡大するのは間違いありません。

また、今年には日本における電力自由化元年です。「電力をいかに効率よくコントロールするか」。そこでもカギとなるのは電池です。今後は蓄電システム単体ではなく、他の新エネルギー関連機器とのセットで普及が進むものと考えています。その点において、資源エネルギー庁による「大型蓄電システムの接続保留緊急対策の補助金」は、導入までに長期間必要な大型の蓄電システムにとって使いやすいものとなっており、工業会もさらなる促進に取り組んでまいります。

また、車載分野におきましても、CO₂削減に向けた各種規制（CAFÉ基準、ZEV規制、ユーロ6など）が本格化していきます。さらに、VW問題により、車両は電動化の方向性へ舵をとり、電気自動車やプラグインハイブリッド車といった「EV」の普及が加速していくでしょう。現在、EV普及の足かせとなっている一充電当たりの航続距離を伸ばすため、より高性能な次世代蓄電池の開発競争がますます激化しています。

日本政府は、環境分野の新戦略として「EVの航続

距離を現在の5倍にする次世代蓄電池」など、環境分野の技術開発強化に向けた戦略を今春にまとめることを決定しました。電池工業会といたしましても、蓄電池市場への期待にこたえるべく、これからも会員各社と共に全力で取り組んで参る所存です。今後とも、関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

結びに、2015年の日本経済は、金融緩和や財政政策に続く資源安、円安効果やインバウンド需要の活況などで、好業績となった企業が多い1年でした。反面、庶民感覚として好景気を実感できない、いわば富の再配分のバランスを欠いた年でもあったように思います。今年の干支、丙申（ひのえ・さる）の意味は「形が明らかになっていく」そして「果実が成熟して固まっていく」状態を表すそうです。こじつければ、これまでに打ってきた色々な手がようやく効果を表し始め、成果である果実が結実する年と解釈することもできそうです。

願わくば、2016年が会員各社様の飛躍の年となるんことを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

経済産業省商務情報政策局情報通信機器課 三浦章豪課長



足元の経済状況でございますが、昨年はアベノミクスの効果もありまして、企業収益は過去最高、有効求人倍率は23年ぶりの水準、賃上げ率は過去17年間で最高水準ということで、経済の好循環がだんだんとまわりはじめている状況かと思えます。

足元の政府全体の課題といたしましては、この経済の好循環を確固たるものとしていかなければいけないということで、その為には、投資が重要という

ことで、企業の皆様方に未来に向けた意味のある投資をしていただくための環境を整備していかなければいけない、ということが重要な課題になっております。また経済の好循環という意味では、昨年も同じような話をさせていただいたと思いますが、賃金の引き上げとか取引先への関係での温かいご配慮をいただければ巡り巡って自分のところに還元されてくると思います。

他方、未来に向けた投資という意味で申し上げますと、最近IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）という言葉が新聞・雑誌で見ない日はないという状況になっております。IoTのような新しい技術革新によって世の中が大きく変わろうとしています。詳細は時間が限られているので省きますが、国としてもこの分野で新しいビジネスをどんどん生み出していくことへ強力に後押しをしていくことを考えております。

昨年10月に官民共同の母体として「IoT推進コンソーシアム」というものを総務省と共同で立ち上げたわけがございます。今後、もう議論ではなく新しい具体的なビジネスモデルというものをそこから生み出していく。資金面での支援であったり、新たに必要となる規制緩和ということを考えております。

他方IoTということを考えますと、自動車にしてもスマートハウスにしてもAVにしてもどの分野をみても電池がそのキーデバイスであるかと思えます。将来、いかに電池産業を育ていくかということが引き続き戦略的に極めて重要な課題であると認識しております。

昨年は、定置用リチウムイオン蓄電池設備の補助金の執行において皆様方には多大なご協力をいただいて無事、執行を円滑に行うことができました感謝申し上げます。累計で5万台を超える導入に成功したわけがございます。今後は少し形を変えてゼロエミッション・パーツであるとか、単に電池が売ればよいということだけではなくもう一段高いステージで政策的評価を伴って電池をどんどん普及させていくということが重要な課題となってまいります。

また水銀の話で申し上げますと、水俣条約が昨年の通常国会で関連法案が成立したわけですが、今後おそらく条約の発効をまってそれを執行していくという運びになると思います。電池工業会の皆様方におかれましては、これまでの情報提供等で大変ご協力をいただいておりますが、引き続き条約の円滑な

施行に向けて積極的に対応をいただければと思っております。電池工業会におかれましては、そういった部分も含めて一次電池、二次電池に関する安全確保、標準化などに対して真摯に対応していただいていると思います。

この場をかりまして日頃のご尽力に感謝を申し上げます。引き続き着実な運営で電池業界のさらなる発展を足元から支えていただければありがたいと思っております。

最後になりますが、今年は日本経済全体にとっても電池業界全体にとっても更なる飛躍の年となりますこと、本日お集まりになっている皆様方のご健勝を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。



引き続き千歳副会長が乾杯の音頭をとり、会は活況を呈した。賀詞交歓会は、正賛会員各社、関連企業、関連団体などの関係者約350名の出席を得て、終始活発な雰囲気で行われ、江連理事による中締めで、盛会裏に終了した。



優良従業員表彰

新年賀詞交歓会に先立ち、平成27年度優良従業員の表彰式が行われ、依田誠会長より各受賞者に賞状と記念品が授与されました。

今回受賞の榮譽に輝いたのは、次の13社15名の方々です。尚、藤谷直子様および植松敏明様は、ご都合により欠席されました。

受賞者（順不同、敬称略）

藤谷 直子（エナックス株式会社）
松島 浩樹（NECエナジーデバイス株式会社）
佐野 久幸（FDKエナジー株式会社）
北條 隆之（FDK株式会社）
廣田 豊（株式会社GSユアサ）
丹羽 重夫（セイコーインスツル株式会社）
益子 俊光（ソニーエナジー・デバイス株式会社）
山本 佳克（ソニーエナジー・デバイス株式会社）

高見澤澄人(株式会社東芝)
藪田 勝吉（東芝ライフスタイル株式会社）
兎林 一男（パナソニック株式会社）
江崎 哲馬（パナソニック株式会社）
植松 敏明（日立化成株式会社）
荒川 真二（日立マクセル株式会社）
永井 隆治（古河電池株式会社）



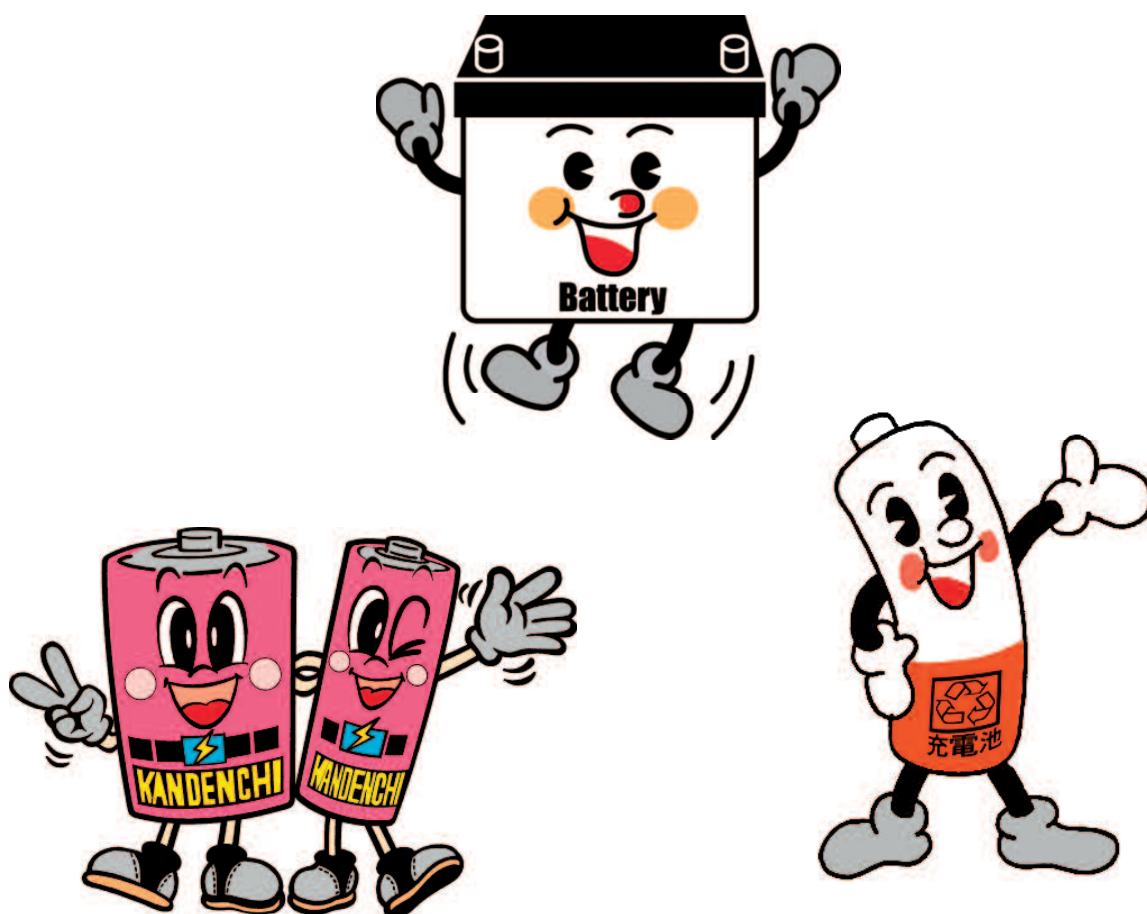


「電池は正しく使いましょう」 PRキャンペーン終了しました

平成27年度電池月間キャンペーンイベントの「電池は正しく使いましょう」PRキャンペーンクイズは、平成27年11月11日～12月31日にかけて実施いたしました。キャンペーン期間中、新聞広告、雑誌広告、ホームページ等で広くキャンペーン内容を告知した結果、全国各地より多数の応募がありました。

キャンペーン広告は、①電池を乳幼児のそばに放置しない ②乾電池やリチウム一次電池は充電しない、などからなる8項目にわたる電池の正しい使い方と電池の種類別に異なるリサイクルや廃棄方法についてPRする内容で、期間中に寄せられた応募は、29,052通にのぼりました。

厳正なる抽選の結果、10万円分の旅行券は、N・A様（東京都）、A・Y様（神奈川県）、R・T様（福岡県）の3名の方が、1,000円分のQUOカードは、T・F様（広島県）を含め100名の方が当選されました



ベトナムにおける 廃棄製品回収の現状を視察

2015年11月16日～2015年11月20日に東南アジアにおける環境規制の最新情報の収集とリサイクルの現状を調査することを目的に電池工業会から委員を派遣しました。特にベトナムにおける電池回収の現状について報告します。

ベトナムは社会主義国ですが、市場経済システムの導入と対外開放化を柱としたドイモイ（刷新）政策が採択され、安定した政権運営のもと、着実に発展を続けています。経済発展に伴い、電気電子機器等の普及率が高まり、廃棄物の発生量が増加しています。大量の発生が見込まれる廃棄物への適切な対応はベトナムにとって大きな課題であり、現在、リサイクル推進に向けた法制度の整備が進められています。

日本の製造企業と法規制政策局との意見交換は、日越共同イニシアチブの枠組みを活用して実施されています。日越共同イニシアチブは、ベトナムの投資環境を改善し、外国投資を拡大することを通じ、ベトナムの産業競争力を高めることを目的とし、日越両国首脳の合意によって設置された枠組みです。WT6（環境リサイクル法制）が環境法案の対策ワーキングチームであり、電気、電子、情報通信、自動二輪業界団体および電子材料リサイクル業界から参画し、国際協力機構（JICA）と日本貿易振興機構（JETRO）が協力しています。本調査においては、日越共同イニシアチブワーキングチームメンバ等と打合せ、ベトナムの環境リサイクルについて情報を収集しました。



会議メンバー集合写真

ベトナムでは、「廃棄製品の収集・処理に関する首相決定No.16/2015/QD-TTg」が2015年5月22日に制定され、2015年7月15日に施行されています。現在、当局は実施細則を作成しており、2016年の3月に通達（Circular）が公布される予定です。本規制の対象製品は電気電子機器、電池、タイヤ、自動車およびバイク等であり、拡大生産者責任に基づき、廃棄製品の回収と適正処理が求められています。一方、現状では廃棄製品はインフォーマルセクタに流れており、その対策が課題となっています。

情報通信機器の回収については、関連メーカーが共同で出資した会社が運営主体となり、No.16/2015/QD-TTgに準拠した回収を開始しています。回収システムの構築にあたり、欧州系のグローバルリサイクル支援会社が協力しています。回収拠点は、ホーチミンに4ヶ所、ハノイに5ヶ所、人民委員会等の公共施設に設置され、コンピューター、タブレットおよびスマートフォン等が回収されています。本調査において、ハノイにおける回収拠点のひとつを視察しました。回収拠点では、公共施設の玄関アプローチに幅2×奥行1×高さ1m程度の回収箱が設置されており、廃棄製品の種類と量が記録され、管理されています。



回収拠点

国際環境規制総合委員会では、本調査をアジアにおける電池環境規制への対応に活かしていく所存です。

（国際環境規制総合委員会）

定格出力100kWの蓄電池充放電専用パワーコンディショナ 「ラインバックオメガES」を販売開始

株式会社GSユアサ

株式会社GSユアサ（社長：村尾修、本社：京都市南区。以下、GSユアサ）は、従来よりラインアップしている定格出力4.5kW～50kWまでの蓄電池付太陽光発電用パワーコンディショナに加え、新たに定格出力100kWの蓄電池充放電専用パワーコンディショナ「ラインバックオメガES」（以下、オメガES）を発売いたしました。

今回発売した「オメガES」は、大容量の100kWのパワーコンディショナと蓄電池を組み合わせること

により、中・大規模な蓄電システムを構築することができるため、ビル施設や工場施設などの電力ピークカットや災害時の電力供給に最適です。また、お客様のニーズにより、蓄電池はリチウムイオン電池と鉛蓄電池から選択可能*です。

GSユアサはこれからも、「オメガES」をはじめとした各種蓄電システムの販売を通じて、再生可能エネルギーの有効活用、防災拠点機能の強化など、多様なニーズに応じてまいります。

【特長】

1. 「オメガES」内蔵蓄電池と太陽光発電電力の有効活用が可能

「オメガES」と太陽光発電用パワーコンディショナを連系させて使用することにより、平常時だけでなく、停電時においても太陽光発電電力を有効活用でき、「オメガES」のみで運転させるよりも、長時間安定して電力を供給することが可能。

2. ピークカットシステムに対応可能

外部エネルギーマネジメントシステム（以下、EMS）から「オメガES」へ入出力指令を出すことにより、蓄電池の充放電コントロールが可能。

3. 蓄電池容量101kWh～メガWh級までの対応が可能

蓄電池盤を複数台接続することにより、大規模蓄電システムの構築、および大容量電力の充放電が可能。

4. 蓄電池の選択が可能

リチウムイオン電池または、サイクル用制御弁式据置鉛蓄電池を選択可能*。

*サイクル用制御弁式据置鉛蓄電池搭載仕様の販売時期は未定です。

【概要】

1. パワーコンディショナ

出力容量	100kW
交流出力電圧	三相3線202V
直流電圧範囲	0～600V
自立運転出力	100kVA
外形寸法(W×D×H)	900mm×900mm×1,900mm (チャンネルベース除く)

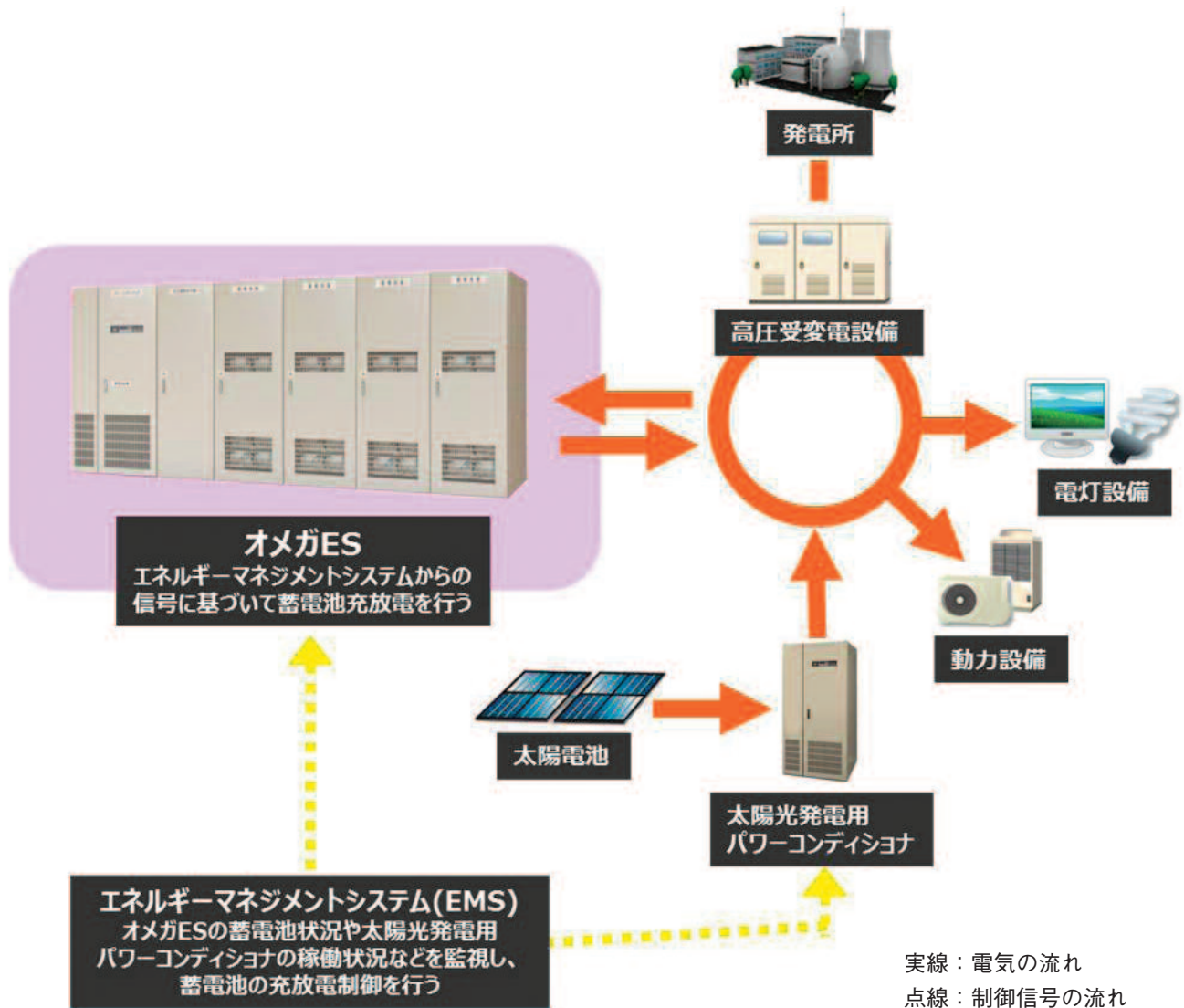
2. 産業用リチウムイオン電池

蓄電池シリーズ	LIM50シリーズ
セル数	576セル以上
定格容量	101kWh以上

3. サイクル用制御弁式据置鉛蓄電池

蓄電池シリーズ	SLRシリーズ(1000Ah)
セル数	216セル以上
定格容量	432kWh以上

【システムイメージ図】



再生可能エネルギーの有効活用を目的としたシステムには、太陽電池やパワーコンディショナなどの設備に加え、エネルギーの流れを制御するEMSが設置される。EMSが太陽光発電用パワーコンディショナと「オメガES」の稼働状況、蓄電池状況をリアルタイムに監視し、その状況に応じた充放電信号が出力され、「オメガES」はこの信号に基づき最適な充放電動作を行う。

【この件に関するお客様からのお問い合わせ先】
 株式会社 GSユアサ
 産業電池電源事業部 新エネルギー推進本部
 TEL 03-5402-5827

【この件に関する報道関係からのお問い合わせ先】
 株式会社 GSユアサ 広報・IR室
 TEL 075-312-1214

平成28年 1月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	8日(金)	広報総合委員会	HPの改訂、手作り乾電池教室の募集、27年度活動報告、28年度活動計画、他。
	8日(金)	平成27年度優良従業員表彰式	正会員会社の内、13社15名の優良従業員を表彰。
	8日(金)	平成28年賀詞交換会	会員会社、マスコミ、OB等の約350名の方のご出席。
	28日(木)	国際環境規制総合委員会	地域別規制動向アップデート、冊子改訂検討、来年度事業計画。
二次電池部会	14日(木)	産業用電池リサイクル委員会	27年度活動報告、28年度活動計画検討、講習テキスト見直し審議、他。
	15日(金)	充電器分科会	建築保全センター依頼事項検討、分科会資料-01、-09の改正審議、他。
	20日(水)	PL委員会	2015年上半期 バッテリー爆発事故状況、爆発事故低減啓発活動について。
	20日(水)	自動車技術サービス分科会	BAJリーフレット(TS-008)の改正審議、他。
	21日(木)	産業用電池リサイクル委員会	広域認定変更申請の状況審議、他。
	22日(金)	資材分科会	共用金型の進捗状況、供給困難部材状況、他。
	22日(金)	用語分科会	SBA S 0402、SBA S 0406の改正審議、他。
二次電池第2部会	12日(火)	LIB安全性技術ワーキンググループ	内部短絡試験に関する対応審議。
	14日(木)	車載LIBワーキンググループ	非駆動用車載LIBの規格作成についての審議。
	15日(金)	蓄電システムワーキンググループ	浸水時の対応検討。
	18日(月)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応審議。
	20日(水)	ニカド・ニッケル水素分科会	IEC62902(21/879/CD)対応の審議。
	20日(水)	大形カスタムワーキンググループ	大形蓄電システムの普及促進検討。
	20日(水)	普及促進委員会	産業用蓄電システムの普及促進検討。
	21日(木)	法規ワーキンググループ	消防法令検討。
	22日(金)	据置LIB分科会	IEC原案検討。
29日(金)	リチウム二次分科会	IEC62902 CD(識別表示のドイツ提案)の審議。 2015年度活動実績および2016年度活動計画まとめ。	
一次電池部会	13日(水)	誤飲対策セルワーキンググループ	WG開催の背景・目的、運営について。諸機関からの要請について、他。
	14日(木)	規格小委員会	IEC60086シリーズの検討。JIS C 8500及びJIS C 8515改正審議。
	15日(金)	リチウム小委員会	IEC 60086-4、62281の検討。リチウム電池輸送規制関係、他。
	18日(月)	環境対応委員会	第6回技術的事項検討会(1/29)事前打合せ。
	21日(木)	誤飲対策パッケージワーキンググループ	BAJガイドライン検討、他。
	21日(木)	ボタン電池回収推進委員会	H28年度の事業計画検討、他。
	22日(金)	資材委員会	H28年度の事業計画検討、他。
	29日(金)	PL委員会	一次電池案図確保のための表示に関するガイドラインの改訂審議、他。

11月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2015年11月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

2013年より経済産業省の機械統計は「その他の乾電池」が削除されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	378,464	66,499	98%	98%	3,876,077	726,009	101%	100%
一次電池計	258,713	9,973	99%	102%	2,443,571	87,555	100%	104%
酸化銀電池	68,326	1,166	94%	89%	768,693	13,583	103%	105%
アルカリ乾電池計	115,544	5,714	99%	103%	866,013	39,574	97%	100%
単 三	59,949	2,568	95%	101%	454,959	17,821	93%	97%
単 四	37,223	1,604	109%	110%	272,172	10,854	102%	103%
その他	18,372	1,542	96%	99%	138,882	10,899	100%	100%
リチウム電池	74,843	3,093	102%	108%	808,865	34,398	101%	110%
二次電池計	119,751	56,526	95%	97%	1,432,506	638,454	103%	99%
鉛電池計	2,822	15,762	100%	104%	28,078	153,941	98%	102%
自動車用	2,174	10,151	103%	103%	21,006	96,176	99%	102%
その他の鉛蓄電池	648	5,611	94%	105%	7,072	57,765	95%	102%
アルカリ蓄電池計	37,830	14,042	87%	88%	484,434	161,458	99%	95%
ニッケル水素	32,760	13,006	89%	89%	395,827	146,079	99%	94%
その他のアルカリ蓄電池	5,070	1,036	80%	80%	88,607	15,379	96%	99%
リチウムイオン蓄電池計	79,099	26,722	100%	99%	919,994	323,055	105%	100%
車載用	32,839	14,373	84%	85%	394,971	179,818	116%	97%
その他	46,260	12,349	115%	123%	525,023	143,237	99%	105%

11月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2015年11月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	183,629	34,134	100%	95%	2,090,586	409,885	106%	106%
一次電池計	91,533	2,433	106%	115%	1,005,743	27,699	107%	115%
マンガン	0	1	78%	56%	114	58	404%	143%
アルカリ	1,531	45	64%	69%	23,976	617	65%	73%
酸化銀	46,319	571	109%	97%	495,457	6,519	104%	104%
リチウム	43,647	1,678	107%	114%	485,094	19,510	114%	122%
空気亜鉛	0	0	—	—	691	10	49%	65%
その他の一次	37	138	311%	5000%	411	983	84%	114%
二次電池計	92,096	31,701	93%	94%	1,084,843	382,186	106%	105%
鉛蓄電池	157	1,076	124%	123%	1,942	12,273	126%	130%
ニカド	2,567	243	75%	76%	61,047	5,569	103%	109%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	1	35%	56%
ニッケル水素	11,549	5,458	100%	109%	132,656	58,389	111%	106%
リチウムイオン	75,262	18,198	95%	97%	859,824	219,120	107%	112%
その他の二次	2,562	6,726	64%	76%	29,374	86,833	70%	90%
全電池合計（輸 入）	149,874	14,390	112%	131%	1,284,316	142,481	97%	120%
一次電池計	142,405	2,433	113%	111%	1,200,327	22,281	97%	104%
マンガン	20,096	280	107%	124%	130,804	1,833	89%	101%
アルカリ	103,011	1,483	116%	119%	885,991	12,900	97%	107%
酸化銀	145	5	106%	88%	2,826	84	87%	91%
リチウム	13,482	559	93%	91%	129,876	5,856	100%	101%
空気亜鉛	5,669	100	141%	133%	50,396	999	104%	119%
その他の一次	2	6	3%	39%	434	609	26%	77%
二次電池計	7,469	11,958	94%	136%	83,989	120,200	95%	123%
鉛蓄電池	619	2,861	94%	103%	6,962	30,050	94%	104%
ニカド	118	154	59%	80%	1,154	1,932	72%	102%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	1	227%	99%
ニッケル水素	2,249	593	98%	109%	20,469	5,544	102%	100%
リチウムイオン	3,837	7,279	104%	163%	45,768	68,607	115%	134%
その他の二次	645	1,070	60%	134%	9,635	14,067	49%	143%